

## **第2章 今年度の活動**

## 1. 2022年度(令和4年度) 合同講座の実施報告(2サイクル目)

◆2サイクル目:2022年10月8日(土)～2023年1月28日(土)

### (1) 募集状況

【定員】15名

【申込】14名 (93%) ※希望者は居たが、仕事都合で直前に断念された為

【申込経緯】 •Facebook:6 •Instagram:3 •ハローワーク:2 •紹介:2  
•経済リポート:1

○一番問い合わせの多かったSNS広告に関しては、「デザイン」という内容と、「受講料無料」が魅力だったとの声が多かった。

【問合総数】19件

### (2) 募集活動

- ・募集チラシの作成、配布、設置
- ・企業訪問時に配布
- ・福山公共職業安定所よりSNS配信(LINE及びTwitter)
- ・HP掲載
- ・別途専用HPの作成、掲載
- ・SNS広告(Facebook、Instagram) 期間:9/13～10/3
- ・地元経済情報誌(ビジネス情報、経済リポート)へ募集記事掲載
- ・福山市電子版広報「みんなの掲示板」掲載申込(掲載されず)

### ◆ビジネス情報:9/10号記事掲載

The image contains two screenshots of local business newspapers from September 10th, both featuring an advertisement for a seminar.

**Top Screenshot:** A large advertisement titled "穴吹カレッジが受講生募集 ものづくりICT人材講座" (Recruiting students for the Design and ICT Human Resources Seminar). It includes a photo of two people, a detailed description of the seminar, and contact information: "福山市三之丸町三〇一 10月22日開講で全四回 I.T基礎やパソコンスキル、各種DCA等を習得。" (Starting on October 22nd, four sessions covering I.T basics and various computer skills like DCA).

**Bottom Screenshot:** A smaller advertisement for the same seminar, specifically mentioning "鈴木壮麻さんと花城アリアさんを迎える国際ソロブチミスト福山" (Guests: Shoma Suzuki and Aria Haga at the International Soloist Masterclass in Fukuyama). It provides details about the date (October 31st), time (18:00), location (Fukuyama City Hall), and cost (10,000 yen).

#### ◆経済リポート: 9/20 号記事掲載

#### ◆SNS 広告(Facebook、Instagram)

福山校文科事業デザイン・ICT SNS広告実施レポート

■集計期間2022年9月13日～2022年9月26日

SNS広告

月	リーチ数	表示回数	クリック数	クリック率
合計	64,112	70,796	437	0.62%
2022/9/13～9/26	64,112	70,796	437	0.62%

媒体別

キャンペーン	リーチ数	表示回数	クリック数	クリック率
合計	64,112	70,796	437	0.62%
Facebook	27,032	31,519	209	0.66%
Instagram	37,080	39,277	228	0.58%

福山校文科事業デザイン・ICT SNS広告実施レポート

■集計期間2022年9月27日～2022年10月3日

SNS広告

月	リーチ数	表示回数	クリック数	クリック率
合計	36,514	42,015	203	0.48%
2022/9/27~10/3	36,514	42,015	203	0.48%

### 媒体別

キャンペーン	リーチ数	表示回数	クリック数	クリック率
合計	36,514	42,015	203	0.48%
Facebook	20,721	25,319	115	0.45%
Instagram	15,793	16,696	88	0.53%

### (3) 実証講座

令和4年度実証合同講座カリキュラム  
「デザイン・ICT 人材育成のためのリスタートプログラム」



#### 「デザイン・ICT人材育成のためのリスタートプログラム」開講スケジュール

通学講座開講日 令和4年10月8日(土)～令和5年1月28日(土)全16回 10:00～17:00(昼休憩1h)

通学講座会場 穴吹カレッジキャリアアップスクール 福山校 〒720-0066 福山市三之丸町30-1 福山駅構内さんすて3F

科 目	内 容	形 态	日 程
1 デザイン概論・演習	チラシなどの印刷物全般におけるデザイン知識やレイアウト技術を習得する。(文字組み、魅せるためのデザイン等)	通学	①10/8(土) ②10/15(土)
2 Illustrator実習	業界標準のソフトウェアであるAdobe Illustratorの操作方法を習得する。		③10/22(土) ④10/29(土) ⑤11/5(土) ⑥11/12(土) ⑦11/19(土)
2 Photoshop実習	Adobe Photoshopの操作方法を習得する。	通学	⑧11/26(土) ⑨12/3(金)
広告制作実習	広告制作実習としてポスターを制作する。		⑩12/10(土) ⑪12/17(土)
3 ICT基礎	ICTの基礎知識、Web会議ツール、クラウド、SNS、Webデザイン、Webマーケティングの基本等を学ぶ。	通学	⑫12/24(土)
4 Webデザイン・プレゼンテーション実習	Webマーケティングを用いた目標設定、具体的な手法、SWOT分析等を学び、構築したWebサイトの公開およびプレゼンテーションを行う。	通学	⑬1/7(土) ⑭1/14(土) ⑮1/21(土) ⑯1/28(土)
5 職業人講話	地元デザイナーによるデザイン業界や仕事についての講話。 (Zoomを使用したオンラインの予定)	オンライン (ライブ配信)	12月平日予定(2h)

#### 選択科目

科 目	内 容	形 态	日 程
1 就職支援(対象者のみ)	自己分析、履歴書・職務経歴書作成支援、面接対策等	通学	12月・1月の平日予定
2 コミュニ케ーション・心理	職場内のコミュニケーション、スタッフの行動を変える心理学	オンライン	10月～1月随時(1.5h)

※駐車場はございませんので、近隣の有料駐車場をご利用ください(受講生ご負担) ※オンライン講座は各自ご自宅等で学習いただきます。(インターネット環境が必要です)  
※不意の事情により、日程・時間数・一部カリキュラムが変更する場合があります。予めご了承ください。 ※パソコンの基本操作ができる方対象

◆通学講座:16回(96時間) +対象者のみ就職支援1回(6時間)

◆オンライン講座:3.5時間 にて実施。

[職業人講話] 12/19(月)14:00～16:00 実施

○地元のデザイナー:クワダヤスヒサ氏によるデザインに関するご講話

[就職支援] 12/15(木)10:00～17:00 実施

※事前アンケートを取り、求職者と希望者(在職者)を対象とした

[コミュニケーション・心理](10月～随時)

・スタッフの行動を変える心理学 ・職場のコミュニケーション ※各自 Web 視聴

## ■科目について

前年1サイクル目のアンケート結果、講師コメントを元に、より「デザイン」の学習を強化したカリキュラムに変更。

具体的には、要望のあった Illustrator 実習を12時間(2回分)増、広告制作実習を6時間(1回分)増、Web デザイン・プレゼンテーション実習を6時間(1回分)増とした。

その結果、授業内で復習の時間を設けたり、個人差によるフォローがしやすかったりと、講師、受講生ともにメリットが大きかった。

## ■講座開講時間帯について

土曜日だから通えたという前年の意見もあり、2サイクル目も同様に、毎週土曜日10時～17時の1回6時間(昼休憩1時間)にて開催。お仕事の都合や体調不良で欠席になる場合もあったが、特に問題はなかった。

## ■合同講座の実施について

授業はデザイン・ICT 人材育成のために必要だと考えられる最低限の科目に絞り、その他には正規雇用や安定した就労に繋げるための就職支援や、業界人の講話、社会人として必要なコミュニケーションに関する内容のみ取り入れた。

カリキュラム変更により実習時間を増やしたもの、それでももっと時間が欲しかったという意見は見られた。時間に対する要望は、デザインという内容を考えると、今後も限りなく出てくるものと考える。よって、今後当プログラム実施の際は、このカリキュラムをベースに、実習時間を可能な範囲で増やしていくことが効果的と考える。

就職支援に関しては、対象者3名のうち、1名は就職(他分野)、1名は家庭の事情によりもうしばらく先延ばし(または自宅にてデザイン業)、1名は EC サイト運営の求人紹介を行い応募に進んでいる。なお、紹介企業は地場に近い尾三地区である。

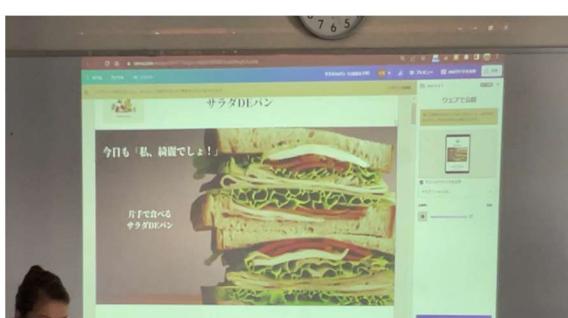
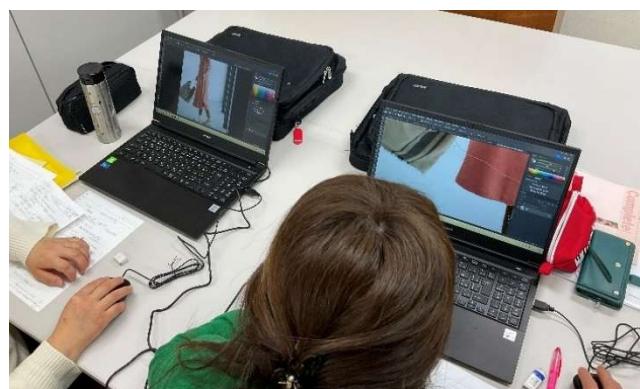
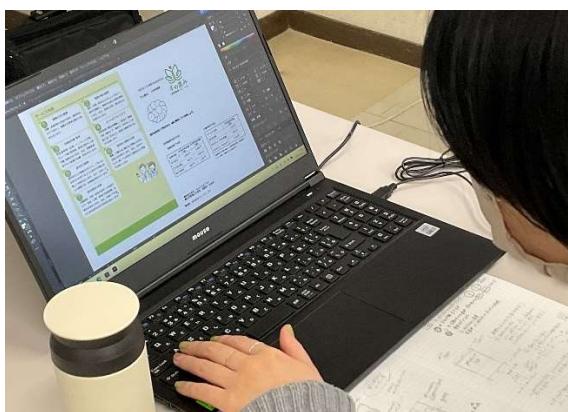
## ■合同講座の検証について

開講中に中間アンケートを1回、修了時に後半アンケート1回と、計2回のアンケートを実施し、当プログラムの満足度等を確認した。

また、中間アンケート実施後、合同講座検証評価委員会を開催した。コロナ状況等も鑑み、見学の代わりに授業の様子を収録した動画の視聴、アンケート結果報告、検証をリモートにて行った。

○令和4年度の完成させた事業普及活動の一環として行う事業成果報告会については、状況を鑑み、2月に実施した検討委員会にて代替とした。

## ■授業の様子



## ■講師コメント

天野講師(デザイン概論・演習、Illustrator実習、Photoshop実習、広告制作実習担当)

### デザイン概論（昨年と同様2日間）

2日間の実施で、教える内容に対してちょうど良い期間であった。

デザイン知識がゼロの方こそ、興味を持っていただける内容であると恥ずかしながら自負しているが、

今回の受講生の皆さんは昨年度よりも「デザインを学びたい意識」が高く、こちらからの発問に対する返りもよく、受講生の皆さん、そして講師自身も大変満足のいく授業であった。

2日間をとおして問題点は見当たらない。

### Illustrator実習（昨年度3日間 → 今年度5日間）

昨年度では「もっと時間をかけてIllustratorを学びたかった」というご意見を受講生の皆さんから寄せられて、今年度は2日多い日程でIllustrator実習を行った。

内容としては昨年度の内容に+αしたものとし、一日の初めに「復習」の時間を設けた。

その結果、教えること一つひとつに時間的余裕をもって、取り組んでいただけたと思うが、

それでも「もっと時間が欲しい」「あと2、3日あってもいい」という感想を受けた。

#### <足りないと思われる理由>

その理由は明確です。

「自分自身がIllustratorのソフトを持っていないがために、自宅で復習・練習ができない」これに尽きます。

次の講義（1週間後）には、覚えていた操作やコツを忘れてしまっており、0からとは言わないが2歩後退するといった感じを受けていたようです。

Illustratorを持たれている方からは「もっと色々と教えて欲しい」という声をいただいているので、

Illustratorを「持っている人」「持っていない人」の差が大きく出るのは明確。

### Photoshop実習（昨年と同様2日間）

Photoshopは、出来ることの多いソフトウェアなので、本当に機能全体を教えるとなると2日間では足りません。

しかし「印刷物の制作」に絞り、「画像処理」を中心に教えたので、2日間がちょうど良い長さでした。

ただ、Photoshopは「慣れ」が必要なので、受講生の皆さんからは「時間が足りない」と思われたと思います。

『習うより慣れろ』の性質を持つPhotoshopですから、あとは各自、本気の人はPhotoshopを購入していただくしかないと思われます。

Illustratorとは違い、直感的で分かりやすいので、Illustratorを受講した後のPhotoshopは「楽しい」「理解しやすい」と思っていたみたいようです。

### 広告制作実習（昨年度1日 → 今年度2日間）

昨年度は、「母の日キャンペーン」を想定し、0からデザインを考えていただきました。

しかし、デザインを考えることに時間を取られすぎて、Illustrator・Photoshopの操作で使う時間がかなり少なくなった。

その反省点を踏まえ、今回は「実際に制作する時間（パソコンを操作する作業）に重点を置いた内容」に方向転換。

名刺・ショップカード・チラシの3種類を制作していただいた。

必要となる文字情報をデータで渡し、その原稿を使って、デザイン概論で学んだデザインのルール・法則を意識して紙面にレイアウトをしていただいた。

昨年よりはるかに「作業をやっている時間」が増え、IllustratorやPhotoshopの操作で分からぬ部分が沢山出てきた。

狙いどおり、『実習』らしい2日間となった。

やはり、自分でIllustrator、Photoshopを持っている方の完成度が高く、持っていない方の中には2日間で完成しなかった方もいらっしゃるので、大きな差を感じた。

もし、今後もIllustrator・Photoshopなどを教える講座があるならば、ノートパソコンの貸し出しを考慮していただければ、より一層受講生満足度は高まると思われる。

### 所感

学習意欲が非常に高く技術面において大きく飛躍した学生が多数いた。  
リカレント授業の特徴である「学ぶ姿勢が高い」この点が今事業の大きな魅力であると考える。  
回数を改善することで就職率アップにつながると考える。

### 前年度からのカリキュラム改善点

#### <授業回数>

- ◆ICT基礎（担当部分） 1回→1回 変わらず
- ◆Webデザイン・プレゼンテーション実習 3回→4回 増やした

#### <内容>

- ①個人指導スタイルから全体指導スタイルへ変更。
- ②Photoshopを使用したデザイン指導からIT指導へとスライド形式指導。
- ③課題方式を2パターン用意し、通常課題プラス任意でステップアップ課題方式。

-----  
③の達成学生が半数以上おり成長飛躍の要因になったと考える。

具体的には前半で学んだアドビソフト技術を使用しながら、WEBデザインの基礎であるバナー制作からマーケティング技術を学習、授業ごとに徐々に学んだWEB学習を最終的に習得するスタイルで指導した。

ほぼ全員が学習習得でき、WEBポートフォリオサイトを完成させた。

### 今後の改善点

①学生へPC貸し出し・アドビソフト共有 課題未達成の原因に「自宅にPCがない」「アドビソフトがない」点がある。業界就職やレベル向上には自宅学習が必須となる。 学生負担を考慮しPCの貸し出しやソフトアカウント共有が望ましい。

-----  
②授業回数増加 時間に余裕がないため常にスピードを求め、学生の大きな負担につながった。  
最終着地点である「WEBポートフォリオ」作成に必要な時間数は最低でもあと1日は必要と考える

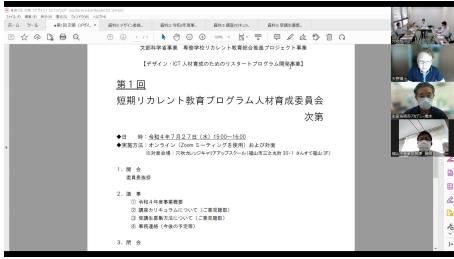
#### 4. 短期リカレント教育プログラム人材育成委員会

第1回開催日：令和4年(2022年)7月27日(水)15時～ ※Zoomを使用したオンライン開催  
第2回開催日：令和5年(2023年)2月 7日(火)10時～ ※Zoomを使用したオンライン開催

##### (1) 短期リカレント教育プログラム人材育成委員会 委員名簿（順不同）

	氏名	所属・役職
1	伊藤 慎二郎	株式会社グローバル専門人材開発ラボ 代表取締役社長
2	北原 聰	学校法人麻生塾 麻生情報ビジネス専門学校 校長代行
3	天野 博士	オフィスコンパス 代表 (サニーグラフィックスデザイン事務所)
4	高橋 宏之	ツー・プライ株式会社 代表取締役社長
5	前田 靖	広島県 商工労働局 商工労働総務課 東部産業支援担当 次長
6	橋本 晃司	広島県立総合技術研究所 西部工業技術センター 生産技術アカデミー 製品設計研究部 主任研究員
7	中森 大道	福山公共職業安定所 業務部長
8	藤岡 克規	福山市 経済環境局 経済部 産業振興課 雇用労働担当課長
9	山下 保	学校法人穴吹学園 穴吹ビジネス専門学校 教務部長
10	玉田 和人	学校法人穴吹学園 穴吹カレッジキャリアアップスクール 事業責任者

## (2)議事録

会議の名称	文部科学省 専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト事業 【デザイン・ICT 人材育成のためのリスタートプログラム開発事業】 第1回 短期リカレント教育プログラム人材育成委員会 議事録
開催日時	令和4年7月27日(水) 15:00～16:00
開催場所	学校法人穴吹学園 穴吹カレッジキャリアアップスクール福山校 (福山市三之丸町 30-1 さんすて 3 階) ※Zoom を使用したオンライン会議
出席者	伊藤慎二郎委員長、北原聰委員、天野博士委員、橋本晃司委員、中森大道委員、藤岡克規委員、玉田和人委員 欠席委員：高橋宏之委員、前田靖委員、山下保委員 事務局員：1名
当日写真	 
議事録作成	先山清華
議事録作成方法	要点筆記
議題	(1)令和4年度事業概要 (2)講座カリキュラムについて (3)受講生募集方法について
会議資料	資料1 短期リカレント教育プログラム人材育成委員名簿 資料2 令和4年度事業計画書(A4 資料 19 枚) 資料3 講座カリキュラム(案)(A4 資料 1 枚) 資料4 受講生募集方法について(案)(A4 資料 1 枚)
議事	事務局から、資料2を用いて事業概要説明。 続いて、資料3を用いて令和4年度の講座カリキュラム案を説明後、委員が意見を述べた。  (北原委員) 昨年度の受講者の声を受けて改善されたということで、大変すばらしくなったのではないかと思う。特にWeb デザイン等必要となるものが追加されており受講生のお役に立つのではないかなと思う。また就業人口が減るのがかなり問題視されている中で、非正規の方がやりがいを持って働く重要な役目を果たせるのではないかと思っている。細かいところで言うと、Web デザイン等は基礎から勉強するとすごく時間がかかるので、SaaSとかサービスを使って手軽にスタートできる部分を一部講座の中に入れてみられてはどうかなと思う。

	<p>(天野委員)</p> <p>前回、このカリキュラムでいう 1～11 までの講師を務めさせてもらった。受講生の声を聞くと、実習の時間を増やしてほしいという方ばかりだったので、今回 Illustrator と広告制作実習を増やした。講師の立場としてはやりやすくなる。また、それに伴って受講生の方の満足度もさらに上がるのではないかと思う。今回のカリキュラム案で、やってみないと分からぬが、すっきりしてだいぶ完成されたスケジュールになっているのではないか。引き続き、しっかり受講生の方に伝えていこうと思う。</p> <p>(橋本委員)</p> <p>成果が上がっているようで嬉しく思う。事業計画書の KPI「就職率 80%以上」について、調査中の 1 人はまだ分からぬことか。</p> <p>(事務局)</p> <p>連絡がつかず確認ができていない。</p> <p>(橋本委員)</p> <p>事務局の方の実感としてどうか。就職にも役立った感じがするか。</p> <p>(事務局)</p> <p>実際の仕事となると、学ぶ時間数が足りないと思うので、もっとしっかりとやる必要はあるかと思う。ある程度基本のところ、ポスター作成するところまでいくので、ソフトの使い方が分かるというところ、手書きでデザイン演習もしっかりやっているので、業種によってはすぐに役立てていただけるところはあると思う。</p> <p>(橋本委員)</p> <p>技術の訓練というところでは、十分な成果を収められているということで、私たちも地元の方に就職していただきたいというところはある。今まで受講された方の追跡というか、どうなったかというのを、実績としてうまくいってほしいなというところはある。</p> <p>(中森委員)</p> <p>ハローワークとしては、就職先のマッチングというのが重要になってくると思うので、ハローワークでネットの求人検索ができるし、求人者マイページに登録していただければ会社に応募ができたりとか、そといったところもまた受講生の皆さんも活用して就職の方に繋げられるようにできればなと思っている。相談も受け付けられる。</p> <p>(藤岡委員)</p> <p>修了された方のその後、就職であったり、時間数が足りないという意見があつたということだが、実績に、再教育を受けておられたりとか、そといった状況があるのかどうかというのがあれば知りたかったなと思った。</p> <p>(事務局)</p> <p>受講生のその後は確認していく。</p> <p>(伊藤委員長)</p> <p>令和 3 年度受講された 15 名の方々の属性は分かるか。</p> <p>(事務局)</p> <p>分かる。前回のアンケート結果を画面共有する。</p> <p>(共有し確認)</p>
--	--

	<p>続いて、事務局から資料4を用いて、受講生の募集方法について説明後、委員が意見を述べた。</p> <p>(藤岡委員) 福山市記者クラブへの持ち込みは前回もされたのか？</p> <p>(事務局) 持ち込んだ。</p> <p>(中森委員) ハローワークでは前回のように SNS 周知、チラシを該当者へ配ることができる。</p> <p>(橋本委員) 中国新聞には掲載されたのか</p> <p>(事務局) 新聞への掲載は考えていない</p> <p>(橋本委員) 記者クラブにも持込されているのでこれはこれでいいと思う。福山は、今はデザインの団体というのではないのか。少し前まではデザインのイベントなどをされていたと思う。そのようなところがあれば、デザインの団体を通じて広く、もっと SNS も広がるかなと思う。デザインをしたい方や、今は求職されている方にも、友達に伝わると思う。</p> <p>(事務局) 前回、講話いただいたデザイナーに、入られている団体に講座の紹介依頼をかけることはできると思う。</p> <p>(天野委員) 直接去年受講生の方と接触しているので、どういった理由で受けにきたかというのをよく聞いている。結局、Facebook や特に Instagram が多かった。だから女性が多かったのかと思う、利用者は女性が圧倒的に多いので。ぱっとスマホに出てきた広告で、たまたま自分もデザインに興味があったからクリックした、という感じの方ばかりだった。今回もきっと Instagram が効果的なんじゃないかな、となるが、その時、どれだけのエリアにどういうキーワードで広告を打つかというのが重要になってくるかと思うので、SNS 広告のところは誰にでも流せばいいというわけではなく、しっかりキーワード等の設定をされた方がいいかと思う。あとは、去年もそうだが企業の方で来られている方が多く、企業への DM を見て、ちょうど彼らはこの能力が欲しかったんだ、と受けに来られた方がいらっしゃった。仕事に直接使えそうだと仰っていたので、企業へのアプローチもいいのかなと思う。ちなみに先ほど言っていた、デザインの団体が福山にあるのかなという話だが、ある。備後に二つ。そういうところに持ちかけても面白いのかもしれないが、デザインをやっている方はデザインに詳しい人ばかりなので、どうなのかは分からぬが。発信する回数と発信する件数も重要なと思うので、今回もいい結果が出たらいいなと思う。</p> <p>(北原委員) クリックの件数が多いのにびっくりした。それくらいの期間でクリックしていただけるならすごく効果がある広告だなと思った。若い方の、新聞を取られていない方や、テレビを見られない方とか色々いらっしゃる中で、スマートホンだけは必ず手の中にあるということで、</p>
--	--

	<p>有用だなと思った。</p> <p>(伊藤委員長)</p> <p>3月まで穴吹カレッジグループに居たが、グループの中にデザインプラスというデザイン事務所があり、この5年間で若い女性社員が結婚や育児で4人ほど退職した。その4人のうち2人は、退職後もデザインプラスの仕事を続けている。会社は退職したが、Illustrator、Photoshop は会社に来なくてもできるので、ネットで仕事を依頼し、作成してもらう。この5月からその2人は新しい会社と一緒に作った。ということで、デザインに興味があるという方はもちろんだが、リモートで仕事ができる一つ。そのように働き方も多様化しているので、皆さんのが色々事情はあると思うが可能な時間の中で仕事をしてもらえるそういう世の中になりつつあるのかなということも関係していると思う。働き方も将来、朝早く、昼の何時から仕事ができる、そういうところからでもスタートしていただければ、仕事は段々増えていくと思う。そして子供が手を離れたら 1 日の中で働ける時間も増えるので、そういうことも募集に活かしていただきたいと思う。</p> <p>(橋本委員)</p> <p>参加者は福山市内だけか。</p> <p>(事務局)</p> <p>通っていただけるなら市外の方でもよい。前回も広島市や岡山からの方もいた。</p> <p>(橋本委員)</p> <p>先ほど、事務所を退職したが自宅から仕事をやってもらっているという形になっているのは、すばらしいご意見だなと思った。県でデザインの制作をやっていても、そのようなデザインの新しい社会基盤というのが必要だと考えていた。マツダは、退職された方が企業に入られていることが多い。エンジニア含めて、マツダで企画やデザインをやった方が地場の企業の方で経験を活かすという形はすごく増えている。女性が出産などで一度退職したり、休職しているような方も多いようだ。一回家に帰られた方で、3時間ならできるとか、そういうニーズはとてもあると思うが、まだそのような仕組みが無いと思うので、ぜひ県や市が力を合わせて作っていけたらいいなと思った。そうすると今回この授業で育てた方も、就職をするのはハードルが高いが、これから SNS やメタバースなど、色んな世界で何かを作ったりその中で販売するものとかツールを作ったりとかいうのは、非常に流行っていくと思うので、その辺はとても良いなと思う。</p> <p>(事務局)</p> <p>いただいたご意見等を元にカリキュラムを確定し、チラシ作成・募集活動へと進めていく。次回委員会は来年 2 月初旬を予定している。また、12 月予定の合同講座検証評価委員会については個別に連絡する。議題が終了したのでこれで終了とする。</p>
--	--

会議の名称	文部科学省 専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト事業 【デザイン・ICT 人材育成のためのリスタートプログラム開発事業】 第2回 短期リカレント教育プログラム人材育成委員会 議事録
開催日時	令和5年2月7日(火)10:00~11:30
開催場所	穴吹ビジネス専門学校(福山市東町2-3-6) ※Zoomを使用したオンライン会議
出席者	伊藤慎二郎委員長、北原聰委員、天野博士委員、高橋宏之委員、前田靖委員、橋本晃司委員、中森大道委員 欠席委員:藤岡克規委員、山下保委員 事務局員:1名
当日写真	
議事録作成	先山清華
議事録作成方法	要点筆記
議題	(1)令和4年度事業実施報告 (2)令和4年度リカレント講座実施報告 (3)開発プログラムの普及方法について
会議資料	資料1 令和4年度事業実施報告書(A4資料6枚) 資料2-1 令和4年度デザイン・ICTアンケート結果(A4資料16枚) 資料2-2 講師コメント(A4資料2枚) 資料3 開発プログラムの普及方法について(A4資料1枚) その他 受講生募集チラシ 1枚
議事	事務局から、資料1を用いて事業実施報告をした後、委員が意見を述べた。  (中森委員) ハローワークでチラシを置いたり、LINE、Twitterの方にも載せたりした。ハローワークからの申込は2名ということで少なかったかなあと思う。またこういったことがあれば協力していく。 (橋本委員) 評価委員会でも内容を聞いたので、とてもよくされた3年間だったと、充実した内容で結果も出されていて内容的にもすばらしいものだったと見させてもらった。今リスクニンギングというのが流行語というか、先週末にあった2023年の県の施策の中でも大きな柱にあって今後の潮流となっていくと思う。学び直しというか新しい技術の習得というものが今

回されたことの受け皿の方がこれから整備していくかないといけないのではないかと感じた。内容は素晴らしい内容だったと思う。

(前田委員)

2点質問だが、就職支援について、1回6時間されたとなっているが、対象者がどういう方だったのかというのと、もう1点は、就職や求人のアクションがあった地域が、備後なのか、県外なのかとか、そういったところがもし分かれば知りたい。

(事務局)

まず対象者3名は、講座開始時に働いていなかった方でかつ、就職支援授業前に受講希望をされた方である。求人は近隣の尾道市のものである。

(高橋委員)

実際作られたデザインというのは見たことがないので、こういった短時間でどれくらいやられているかが見せていただけるといいなと感じた。

(事務局)

用意しているのでこのあと見ていただく。

(天野委員)

講師で前半入ったが、今回Illustrator実習が3日から5日に、広告制作実習も1日から2日に増えている。受講生の皆さんに満足はしていただいたが、それでもまだまだ勉強したいと言われる方が多かった。前回も、もっとIllustratorや制作の時間が欲しかったという意見があったので増やしたと思うが、増やしたところでもっと勉強したいという方がほとんどだった。講師側としては、増えたことにより復習の時間を作ったり、能力差があるのでそのフォローがしやすかったりしたというが、受講生側からしても講師側からしてもメリットが大きかったと思う。今回は前回と違って実際にデザインの就職がしたいんだと思って動き始めている人がいる。デザイン事務所に電話したり訪問したりという方もいるが、そういうところに就職するには作品が作れていないとダメ。作品集という形で。それを求められたので、講座は終わったが、サポートしてもらえないかということで、もう少し技術的な部分、デザイン的な部分も含めてサポートしていくようなかたちになっている。また、今回の受講者の中にパン屋さんにお勤めの方がいるが、そちらが今後ジェラートと棒アイスを販売するということで、そのパッケージデザインを、一緒に参加されていた方に依頼をかけて実際に仕事として始まっている。ところどころ私がチェックしてサポートしている状態。今回は目的意識が高い人が集まって、授業の方も熱い授業になったのではないかと思う。

(北原委員)

よく受講者の声を拾って、カリキュラムを修正されてより良いかたちになっていっているのかなという感想である。興味ある方が参加されているというのが第一で、しかもそれが受講されて楽しいという意見が出ていることと、もっとやりたいという意見が出ていることを見ると、ニーズがあつてすごくいい会になったのかなと思う。アンケートを見せていただいて、ツールの使い方というよりは、ツールを使う目的があつてこそその実習があるところが面白いなと思う。参加された方の満足度の高さが分かる結果じゃないかと思う。

	<p>(事務局)</p> <p>天野委員に質問だが、今回の授業科目で勉強してきたが、仮にもう1ランク上の勉強をするとなると、これ以外にどんな科目を勉強したらいいのか。または、この科目で時間数を増やした方がもう少し質が高いものになるのか、その点を教えていただきたい。</p> <p>(天野委員)</p> <p>結論から言うと、どちらも必要だと思う。新しい科目もそうであるし、このカリキュラムをもつと内容の濃いものにできるようにする必要がある。新しい科目としては、もっとデザイン 자체を実習できるような時間があるといいと思う。IllustratorとPhotoshopで技術的なことがフォローできても、この2つは結局ただの道具にしかすぎないので、ちゃんとしたデザインのものを作ろうと思ったら、学んだデザインの知識を使って、ゼロから自分で作っていくということが必要かと思う。広告制作実習では、あくまで短時間で作るものしかできていないので、紙面の中に入れる情報が限られている。少ない情報をレイアウトすることしかできていないので、もっと多い情報、例えば雑誌の特集ページや商品のパッケージのデザイン、チラシなど、もっともっと実務に近い内容の科目を入れることができれば、より就職に繋がっていくのではないかと思う。</p> <p>(事務局)</p> <p>また今後このようなことがあれば反映させて提案させていきたいと思う。</p>
	<p>続いて、授業風景の動画を視聴し、資料②を用いてアンケート結果(前半部分)を報告して委員が意見を述べた。</p> <p>(北原委員)</p> <p>ビデオを拝見して、楽しそうというのが第一印象。楽しそうに取り組まれていていいなと思った。講師のアドバイスがタイムリーで、作りながらアドバイスをいただけるというのは、確かにこういう対面講座でないと実現できないなというところを感じた。大変いい授業だったと思う。</p> <p>(天野委員)</p> <p>あのような雰囲気で、極力周りの人がどんなものを作っているかというのを見て回りましょう、という時間をとった。お互いに競い合うような気持ちも生まれるし、自分が作っているのがいいのか悪いのかという判断がつかない、作っている本人は。周りの人と見比べて、自分がやっているのは間違っていないんだな、大丈夫そうだな、とか、逆に他の受講生の方に結構厳しく言う人も中にはいる。ちょっとここ読みにくいんじゃない、とか。この使いいちからかして見にくいけれど、とかそういう意見をお互いに言い合っているので、切磋琢磨しやすい環境を作れたのかなと思う。</p> <p>(高橋委員)</p> <p>先生は大変だなあと感じた。Illustrator、Photoshopはどうしても慣れが必要になるので、やはり帰って復習できる環境というのがないと、なかなか実践でというのが難しいと感じている。これも課題と思うが、今後改善ができれば、レベルアップできると感じた。</p>

	<p>(前田委員) 対面での良さがすごく出ていて、雰囲気のいい講座だったのかなと思った。アンケートで「役立つ・役立たない」の回答もみたが、もしこれに、「満足しているか・していないか」となると、皆さんやはり満足という回答になったのかなと思いながら見た。</p> <p>(橋本委員) 前回お話しさせていただいたので特にはないが、動画で見ても良い内容だったと思う。</p> <p>(中森委員) 一人でなく皆さんでお互いに話し合いながらやっていくのが集合の良いところなのかなと思う。名刺の出来上がりを見ても私がお願いたいなと思うくらいで、良い講座だったと思う。</p>
	<p>続いて、一部受講生の作成した Web サイトも紹介し、アンケート結果(後半部分)を報告して委員が意見を述べた。</p> <p>(中森委員) デザインされて、皆さんの前で発表されて、意見が聞けるということで、それでまた講座の内容に満足されたと思う。伝えることでまた自分の学び直しになったと思う。</p> <p>(橋本委員) いい作品を作られているなど初めて見て良かった。Wix やラクスルなど、テンプレートを印刷屋さんが作っているもので、ほぼ Illustrator のようなソフトが無料で使えるサイトもある。ある程度フリーで使える出版サービスのものの中にもほぼ Illustrator みたいなものが入っており、POP などを作らなくてもよく、素材や写真もフリーで使えるかつ安全で、そのような便利なものがでている。また、イラスト屋さんというフリーで使える素材は学校の印刷物から行政まで広がっていて、ある程度 60 点から 65 点のデザインはできるが、そこから上に行こうとするときに自己表現ができるというのを、皆さんに取り組んでいただきたいなと思う。これからはきっと写真をキレイに撮れるように学びたいとか、写真は大切だと気付かれて、自分で写真を撮ることの難しさや、いい写真が撮れればロゴとかは少なくできるなど、そういうことが分かってくると思う。段々インスタントになっていく中で、個性や自己表現というところまでいくのか、どうするのかな、というところ。写真のこともストックフォトを使わなくてどこから持ってきた写真を使ってトラブルになるとかそういう面もあると思うので、そこは注意してもらいたい。自分で日頃からいい写真を撮っておくとか、そのような工夫もこれからしていくのではないかと思った。</p> <p>(事務局) 今回は Wix や Canva というフリーのものを使って作ってもらった。</p> <p>(橋本委員) それらを使って新商品を開発した人がファッションのもので持ってきたことがあるが、構図や写真が少しおかしかったりした。やはりデッサンすることとか、デッサンする中で物を写すだけではなく構図を考えたりとか、改めてそのようなものは大切なと思う。あのよいうなソフトを使うとほどほどいいものが出来てしまうため。</p>

<p>(前田委員)</p>	<p>講師コメントに学習意欲が非常に高い学生がいたとか学ぶ姿勢が高いとか、受講生のアンケートの最後のところでも、この講座をきっかけにチャレンジし続けたいとか、もっと講義時間を増やしたいとか、そういう意味からすると、独学でやられたり会社の業務の延長でやられるのではなく、そこを超えてプロの方に接触して受ける講座とか、そういうところに位置する講座として意味がある印象を受けた。私もだが、受講生の方もそのように思われたコメントなのかなと思って見させていただいた。</p>
<p>(高橋委員)</p>	<p>先ほど、印刷屋さんとかデザイン会社泣かせのソフトがいっぱい出てきていると言われていた中で、私の義理の息子がプロのカメラマンをしており、撮影を見学すると照明の方に時間を一番かけてやっている。Numberとか雑誌の表紙など色々撮っているが、今後動画や写真の撮り方も含めて、やはり企業で役立つものという部分でレベルアップする意見が聞けるとか、そういうことがあってもいいなと思った。会社にデザイナーを雇っていることが多く、あとはそれをどういうふうに使っていくか、というようなことが多いので、このような講座でデザインであったり業務がプラスになってタイムリーにいけるというのは非常に役立つ講座じゃないかなと感じた。</p>
<p>(天野委員)</p>	<p>後半の講師の授業は Wix を使ってされたが、自宅でも、ソフトは不要でパソコンで使えるので、Wix サイトにアクセスしたら使える。しかも今回は自分でサイトを作ってみてください、という感じでやった。結局自宅でできる環境があれば、あれぐらいのものが作れるということ。それがしっかりと表れたんじゃないかなと思う。今回ことで Illustrator、Photoshop は自分で買われた方が 3 名いたがやはりすごい差が出てきた。対面授業も大事にするのであれば自宅でもできる環境を整えるということが重要だなど、Wix の作品を見て思った。ただ Wix 自体はテンプレートがよくできているので、それを使ってしまえばデザイン知識がなくてもそれなりの見た目は作れる。誰でも作れるが、何を根拠にそのデザインをしたか、と理論的に分かっていないとデザインとは言えないと思う。偶然できたものはデザインじゃないと思う。狙ってああいうものが作れるようになったらいいなと思う。</p>
<p>(北原委員)</p>	<p>専門学校という立場として普及ということで一つお話しだが、今回対面のいいところが出ているということと、あと座学もかなりの量が必要だということを考えると、どちらでもできるような講座とか、これは絶対対面がいいとか、データをつけていただけると、もしこれを採用した学校や機関の方でカリキュラムの構成をつけやすくなるかなと思った。特に最近はリモートができる当たり前という雰囲気も世の中にはあり、一部はリモートができるというのが受講者の募集にも役に立つかなと思うので、そのあたりのデータが今回の講座に付けられると非常に普及には助かるかなと思う。</p>
<p>続いて、事務局から資料3を用い開発プログラムの普及方法について説明し、委員が意見を述べた。</p>	

(北原委員)

本校でもイラストやデザインという分野は若い人にも非常に人気があり、ただ、就職となると、必ずしもニーズどおりに就職できるかというわけではないというところが今までだった。今回お話を伺って、就職だけがゴールではないのかなというのも、最近多様性というか、いろんな働き方もあり、フリーランスであるとかご自身で起業なさるとかそういう時にこういう講座が非常に役に立つのであれば、そういう方々に向けて展開していくというのが一ついいのかなと思っている。今のところ専門学校は18歳、かなり限定したような講座が多いが、今回のような例を参考にして社会人の方いろんな人が参加できるようなものができればなと思った。

(天野委員)

今回14名の方が参加されて、独立を考えている、副業としてデザインやりたい、そういう方も結構多かった。独立したい・夫婦でやりたい方、今後海外移住の予定があり、海外でもできる仕事いわゆるリモートでもできる仕事としてデザインを自分で取り組んでいきたいという方、今会社勤めをしているけれど辞めて自分で会社をするのに、自分で印刷物などができるから社内広報として起ち上げたいという方、そのほかお二人の方と、トータル5人の方が独立を目指して来られていた。就職するという目的一つじゃなく、独立とかそういう方面、自分で何とかするんだ、という考えをもっている方が、もしかしたら40代、50代の特徴なのかもしれないが、さあこれからまた一から就職して会社でやっていくぞ、というよりかは自分自身が何とかしたいというのが、この年齢は多いのではないかという気もした。考えてみると、前回受けた方も独立している方が3人いる。50代の特徴なのかなという感じはした。

(高橋委員)

うちのお客様がだいたい70歳まで定年が延長になってきている。60歳以降からどういった仕事を会社で活かせるかと考えられている方が、60歳以上の方でも非常に多いので、こういった40代、50代、60代という年齢関係なくレベルアップを考えていく方がこれからどんどん増えていくんじゃないかと感じている。デザインだけではなく、何か勉強する場があるとまだまだ色んなかたちの可能性が出てくるなあというふうに感じている。

(事務局)

高橋委員に質問だが、会社側からするとこういったことを勉強しておいてほしい、ということがあれば伺いたい。技術的なものや採用時に重視していることなど。

(高橋委員)

今私が一番求めているのはやる気である。デザインが好きだから、パソコンが好きだから、ではなくてやはりこういったデザインをやることで、自分が何をやりたいか、目標・目的意識を持つということ。あと、やる気があつたら色々なことも聞いてこられるし、努力もするので、極端に言えば、本当にやる気があつたらIllustrator、Photoshopは買う、パソコンも買う、というのが普通だと思うので、やはりそういう意味ではやる気を持った人が欲しいかなと思う。

(前田委員)

今仰ったやる気とか、学習意欲の高い方が集まりやすい募集の仕方だったのか、たまたまなのか、何か言葉がひつかかって集まられたのか、もともと就職氷河期対象だったと思うが、先ほどのパソコンの基本操作ができる方が対象、だけではなく、何かひつかかってそういう方が集まられたのであれば、そこを今後のよりいい講座に、先ほどの動画のような内容にできると思うので、そこをちょっと分析というか、何がひつかかってんだろうと考えてみるのもいいのかなと思った。

(橋本委員)

私の感覚では、グラフィックデザイナーの数がそれだけこれからもたくさんいるのだろうかと思う。人口減になり社会の規模もインフラも縮小していく中で、広告出版だけでもいえばたくさんいらっしゃり、フリーランスもインハウスも結構デザイナーはいて、なりたい人もたくさんいる。美大の中でも今、実際のデータの中でも女性の方が多い。私のやっている工業デザインにおいては、工業デザインの人気全然ない。それはなぜかというと、家電も車のメーカーもいつ無くなってしまうか分からない中で、工業デザイナーになつてもいつリストラされるか分からない、ということで、工業デザイナーにはならないという世の中のようだ。ただ、今回の話でいいことを言っていくと、理系人気がしばらく続いている、芸術の方を勉強しても就職できないのじゃないかというところがあったと思うが、文系の人が、私はこういう思いでこれをして社会に役立てていきたいと、語れる。ストーリーを話せる力はすごく大切で、今回の Illustrator、Photoshop を使われた方々はそういう感じがする。何か作りたい思いがある、そといった人たちを大切にしていかないといけないな、というところがある。それは前置きとして、広島県の転出が最多とあり、結局首都圏集中してしまう。一つ提案でアニメーションの制作会社というのを、広島に誘致できないかなっていうことをずっと考えており、Illustrator や Photoshop のスキルが活きるのはそこではないかと思う。グラフィックデザイナーや広告がたくさんいらないというわけでなく、アニメーションの制作会社はある程度仕事がルーティーン化されており、セル画とか連続した絵を描いていくというのは、Illustrator や Photoshop というのがすごく生きる世界である。年間 300 本あまりアニメを作っている中で東京の制作会社は何年も先までも人手が取られている状況。そういう意味では Illustrator や Photoshop を使った人が必ずしもショッパーやリーフレットを作るだけでなく、そちら方面もいくといいのではないか、広島県がそれをやればいいなと思っている。アニメーションは日本人の職人芸だと思っていたので、Illustrator や Photoshop を使う、府中や福山の手先の器用な人には絶対にいいと思う。今回マウスで描かれたと思うが、液晶タブレットとか板タブレットも次には使いたくなってくると思うので、この先でできればいいかなと思う。そういう意味でクリップスタジオというアニメーションを描くソフトなんかも面白いので、Illustrator、Photoshop から始めて次にそういうものを、自分の個性をより出していくといううえでこういう物にも挑戦してもらえばいいかなと思う。あと Web とアプリの開発というところの人材に、この開発プログラムの普及においてもソスコードとか書くものに対して、絵をどういうふうに提案していくとかという仕事はすごく求められているので、そこを繋げていってほしいなと思う。また、YouTube などを見ても、今ショートストーリーという、違う漫画のキャラクターが一斉に介してお話をするとか、一つの主題歌のダンスをみんなでやるとか、素人が作ってい

るがすごいスキルである。Illustrator や Photoshop を使って印刷物をアウトプットするだけがこれからデザインでなく、のエンターテイメントなどにも活かせるはずなので、穴吹学園でもそのようなことをどんどんやっていただくと嬉しいなと思う。メタバースとか今度アバターとかのデザインというのも出でてきていますが、Illustrator に始まってそういうところまで色々進めていただきたいなと思う。

(中森委員)

ハローワークでは、職業訓練は基本的に就職を目的にということだが、こちらのコースの方では就職以外の目標というか、そういったところも良いとしているところがいいのかなと思う。先ほど高橋委員が言わされた、70 歳まで企業の方が雇用を続けられ、こういったかたちで年齢の高い方が何かスキルを身に付けて会社に残れる、会社の役に立つような機会を与えられればいいのかなと思う。

(伊藤委員長)

委員の皆様のご意見をいただいて感じたが、おそらくこのデザインは、マーケットは国境を越えるのではないかと。日本の中だけで仕事を将来やっていきましょうというではなく、アジアとかそういう国々にもニーズが、アニメもそうですが日本は結構質の高いそういうコンテンツを持っているので、先ほど言われた YouTube とかショートストーリーとか融合していく中で、国境を越えていけばいいなと。さきほど移住される方がいらっしゃるということだったが、まさにその通りである。そういうことも視野に入れて今後、次の事業を考えていかなければと思う。

(事務局)

いただいた貴重なご意見・ご提案をふまえて講座のブラッシュアップと普及活動を行っていきたい。議題が終了したのでこれで終了とする。

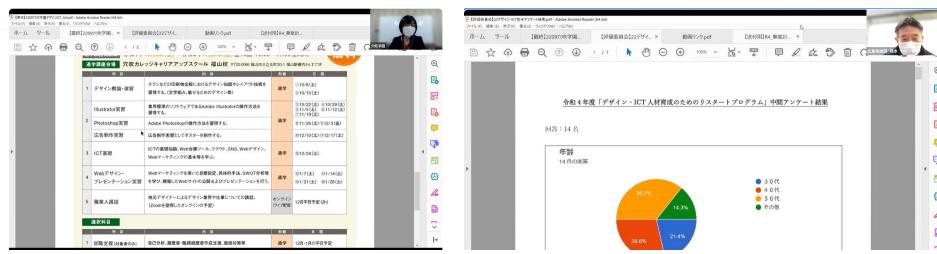
## 5. 合同講座検証評価委員会

開催日：令和4年(2022年)12月26日(月)15時～ ※Zoomを使用したオンライン開催

### (1) 合同講座検証評価委員会 委員名簿 (順不同)

	氏名	所属・役職
1	天野 博士	オフィスコンパス 代表 (サニーグラフィックスデザイン事務所)
2	高橋 宏之	ツー・プライ株式会社 代表取締役社長
3	橋本 晃司	広島県立総合技術研究所 西部工業技術センター 生産技術アカデミー 製品設計研究部 主任研究員
4	山下 保	学校法人穴吹学園 穴吹ビジネス専門学校 教務部長
5	玉田 和人	学校法人穴吹学園 穴吹カレッジキャリアアップスクール 事業責任者

## (2)議事録

会議の名称	文部科学省 専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト事業 【デザイン・ICT人材育成のためのリスタートプログラム開発事業】 令和4年度 合同講座検証評価委員会 議事録
開催日時	令和4年12月26日(月)15:00~16:00
開催場所	Zoomを使用したオンライン会議
出席者	天野博士委員、橋本晃司委員 欠席委員:玉田和人委員、高橋宏之委員、山下保委員 事務局員:1名
当日写真	
議事録作成	先山清華
議事録作成方法	要点筆記
議題	(1)受講状況報告 (2)中間アンケート結果報告・分析 (3)後半の授業展開に向けて
会議資料	資料1 中間アンケート結果
議事	まずは前半講義の授業風景動画を視聴し、受講状況を報告後、委員が意見を述べた。 ※授業の中身については、講師も担当されている天野委員より報告・回答  (橋本委員) ベジエ曲線は皆さん慣れているのか (天野委員) ペンツールは結構難しく、経験者も独学では難しかったと言っていたが、短時間で理解するための教えるコツがあるので、全員3時間程度で使えるようになった。もう1日あればペンツールだけで絵を描くところまでいたが、もっと知らないといけないことがあるのでそこまではやらなかった。  続いて、事務局より中間アンケート結果をもとに報告を行い、委員が意見を述べた。  (天野委員) 授業に対する満足度がいくら高かろうが、結局実務として操作ができるようになるかどうかである。そうなるとやはり時間が足りない。浅く広くしかすることができない。本事業は

今年度で終わりだが、今後、本当に仕事で使える技術を身に付けるのであれば、浅く広くした方がいいのか、深く掘り下げていった方がいいのかを考えて行かないといけないなとは思っている。Illustrator と Photoshop だけをするわけにもいかないのでどうしても浅く広くはなってしまうと思うが。もし全体の日数を増やせるのであれば、かなり実力が付けられるのではないかと思う。受講生の方には授業の最後に、今回の講義はきっかけにしか過ぎないと話をした。ここまで分かっていれば、書店に売っている本を見てもすぐに理解できること、Adobe のソフトについても伝えた。ひとりひとりがこれからどうしていくかだと思う。

(橋本委員)

実際どれくらいできるようになったら、40～50 歳の方が再就職できるのか、と思う。

トンボを付けたり色指定のところまで今回のカリキュラムでされているのか。

(天野委員)

やっている。裁ち落とし、トンボ、トリムマーク、アウトライン、印刷屋にデータを渡すときにはここまでやっておかないといけない、というところも、理解してもらうように説明している。

(橋本委員)

ここまでやっていると素晴らしいと思う。その先、今までできる人できない人で違つてくるし、作っても容量が大きくなったりとか、解像度やピクセルという言葉が苦手な方もいたりするので、そのあたりもきっと教えられているのだと思う。

(天野委員)

商業印刷の場合のピクセルや、ピクセル・パー・インチの意味も教えている。

先ほど橋本委員が言っていた、40 代 50 代の方の就職についてだが、DTP オペレーターなら、大きな規模の会社になるが募集しているところもある。福山市なら、DTP オペレーターのパートで未経験可というところもある。40 代くらいまでになるが。簡単なところから始めて、将来的にデザイン事務所を起ち上げるということもあり、受講生からどうしたらいいか質問も受けた。

(橋本委員)

経産省のデザイン制作室の今後の事業を見ていても、一度退職された方や対策を見ても女性の隙間時間を使ってデザインの技能がある人が働くような世の中を作っていくというようなことが出てきているので、今回のこの事業がうまく入っていけばいいなと思う。動画を見て、皆さん活気があつてやりたいという意欲をお持ちなので、行政や地場産業でもそういう方を使えるような接点を作つたらいかなと思う。

引き続き、中間アンケート結果の感想を確認し、委員が意見を述べた。

(天野委員)

非常に皆さん意識が高く、前向きであった。デザインとは別だが講義中に就職が決まった方もいた。今回は仲間が非常に良かった。お互いに意見を言い合つて仲良く前向きに取り組めたと思う。Illustrator と Photoshop が学びたくて来たという方が多かった。また

別のかたちでフォローアップ研修でもできると参加される方も多いのかなと感じる。なかなか難しいが。

(橋本委員)

次に繋がる手立てを知りたいとアンケートにあった件。いきなり就職というのも難しいが、最近マルシェとかで半分素人の方でもセンスのいいシールやタグを作ったりするので、そういうところから始めてみて色々経験していかれるのもいいかと思う。40代50代の方が自分のやりたいことをやりたい、という意味ではそういうところで仲間が増えていくって、頼まれたりするかもしれない。広島市のケーキ屋さんでは、知り合いの人がお店のWebや看板などされているが、結構レベルが高くて。そうやって腕試ししていくのもありだと思う。

工業技術センターでは Illustrator を教えられない。今回のあとの人があれらのような市民教室などでできたらいいと思う。Illustrator や Photoshop は一般の方で使いたい方も増えているので。せっかくここで習った方がコミュニティを作つて情報交換していくのもいい。天野委員にお聞きするが、Illustrator や Photoshop と似たようなソフトがあるが、それを仕事で使っていくのは障害があるか。

(天野委員)

個人的に趣味で使うのはいいと思うが、実際にデータを渡すとなると、Illustrator や Photoshop で作ったものが前提である。他のソフトでも、Illustrator や Photoshop のデータの書き出しへできるが何の保証もない。したがって、正直使うのは怖い。受講生にも、無料で使えるソフトはあるが保証のない世界なので、本当にデザインをやりたいのであれば、いくらか支払って本物を使った方がいいと伝えた。お客様のものを作るのに何かトラブルがあつてもいけない。

(橋本委員)

私もそう思う。これを受講してサブスクを買わないがためにずっと離れてしまう人がいるのであれば、技術を忘れないために家で触つてみたり絵を描いてみるのはいいと思った。

(事務局)

残り1ヶ月、Web の授業になっていくが、ここまでこので何か意見などはないか

(橋本委員)

皆さん有意義にされているようで、特がない。Web は PC でのサイト作りか。

(事務局)

パソコンで、フリーで使えるサイトも利用していく予定である。

以上で議題が終了したのでこれで終了とする。